

6 南予南部共創型交通アクセス向上事業費

予土線沿線を含む南予南部地域において、医療、教育、福祉などの関係機関における移動ニーズもふまえながら新たな交通体系を当該機関等とともに「共創」し、地域自らがデザインする地域公共交通を実現する。

お問い合わせ先
企画振興部政策企画局
地域政策課交通政策室
(089-912-2251)

指標

指標	施策	25 暮らしを支える地域交通の維持と基盤整備 KGI 県内の主な公共交通機関の年間輸送人員（鉄軌道、一般旅客自動車）	現状値	32,715千人（R4年度）
	細施策	25-1 県内公共交通の安定確保 KGI 県内の主な公共交通機関の年間輸送人員（鉄軌道、一般旅客自動車）	目標値	40,656千人（R8年度）
			現状値	32,715千人（R4年度）
			目標値	40,656千人（R8年度）

事業イメージ

KPI	日常的な外出での移動手段が公共交通である 県民（南予地域）の割合 (1%/年増)	現状値	4%（R5年度）
		目標値	7%（R8年度）

【南予南部地域の現状】

- 人口減少、高齢化、過疎化、自家用車の普及→公共交通機関の利用減
- 幹線であるJR予土線→国が想定するローカル鉄道再構築協議会制度の候補路線
- 令和4年度「YODO MaaS」、令和5年度「オンデマンド交通実証実験」、令和6年度「モーダルミックス実証実験」→ 幹線と二次交通のアクセスを強化のため、利用者目線のニーズ把握と多様な主体の連携による利用促進・利便性向上

【令和7年度】

JR予土線及び路線バスの利便性向上 実証実験

○モーダルミックス実証実験



鉄道・バス乗車券で鉄道・バス
双方方向の利用が可能に

○予土線Wi-Fi実証実験

予土線ホビートレインをWi-Fi利用可能にし、車内の利便性向上



○電動シェアモビリティサービス 導入実証実験

南予南部地域の各市町に電動
キックボードポートを設置
予土線との混乗実証



【令和8年度以降】

南予南部交通アクセス 向上検討会

- (県地域公共交通網再編協議会)
- 移動ニーズの確認
 - 他分野共創に向けた検討

地域自らがデザインする
公共交通の実現

これまでの検証結果 を踏まえた実証継続

- ・モーダルミックス
- ・シェアモビリティ
- ・自動運転バス
- ・キャッシュレス決済など

事業概要

※愛媛県地域公共交通網再編協議会として実施

総事業費：13,651千円(県：7,030千円 国：6,621千円)

1 南予南部交通アクセス向上検討会の開催

事業費312千円 (県282千円 国30千円)

国関係機関や関係市町、交通事業者だけでなく、医療機関や教育機関、福祉団体等も参画する検討会を開催し、利用者目線で地域公共交通のアクセス向上を検討する。

参集範囲：四国運輸局、関係市町（宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町）、
交通事業者、医療・教育・福祉など他分野の関係機関

開催回数：年4回程度

協議内容：移動ニーズの確認、他分野共創に向けた検討等

2 幹線公共交通の利便性向上、利用促進に係る実証実験の実施

事業費13,339千円 (県6,748千円 国6,591千円)

(実施方法：業務委託)

(1) JR予土線及び路線バスの利便性向上実証実験

【モーダルミックス実証実験】 実証期間8か月

宇和島駅～松丸駅間を有効区間とするJR及び路線バスの乗車券類で、鉄道及びバスの相互利用を可能とし、R6年度の実証実験を拡充して実施する。

【Wi-Fi実証実験】 実証期間4か月

JR予土線の車内にWi-Fi環境を整え、乗客の利用率やアンケートにより利便性向上度を検証する。

(2) 電動シェアモビリティサービス導入予土線混乗実証実験 実証期間4か月

南予南部の4市町(宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町)の鉄道やバスの交通結節点等に、電動キックボード等のシェアモビリティサービスの貸出ポートを設置し、予土線への混乗可能とすることで公共交通から観光地等までの二次交通を補完する実証実験を行う。